

だいせつぎんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

春の使者、エゾエンゴサクの魅力

エゾエンゴサクという花をご存じでしょうか。雪解け後すぐに開花して春の訪れを告げる花で、小さな青い花を鈴なりにつけます。低山の林床や町中のちょっとした空き地などに咲き、北海道では比較的どこにでも見られるごく普通の花です。あまりにもありふれているので、私は以前、雑草の類と考えていました。

ところが、本州から来た旅行会社の登山ツアーをご案内した時、その考えは改めさせられました。

山登りを終えた帰り道、ドライブインで休憩した時のこと。一行が駐車場の隅に咲いているエゾエンゴサクを見つけて歓声を上げ、一大撮影大会を始めたのです。それを見て私の頭の中は疑問符でいっぱいになりました。

「え、なんで写真撮ってるの？ こんなに大勢で…。ただの草なのに…」。熱心にシャッターを切っているお客さまにおずおずと尋ねてみると、こんなきれいな色の花は見たことがない、というようなことを熱い口調でおっしゃっていました。私にとっての雑草は、お客さまにとって稀少な花だった



▲エゾエンゴサク

のです。

そもそも私は北海道外に住んだことがありません。しかも当時はガイドの仕事を始めたばかりで、道外の方と触れあう機会もほとんどなかったころです。

北海道の常識以外持ち合わせていなかったところに、違うものの見方をがっつんとお見舞いされたわけです。こういうのを「異文化との遭遇」とか「カルチャーショック」というのでしょうか。

お客さまの熱意につられてエゾエンゴサクをよくよく眺めてみました。地面に膝をついて這いつくばるようにして顔を近づけると、確かに吸い込まれそうな神秘的な青い色をしています。考えてみれば、あまりにもありふれていていつでも見られるものだから、こうしてじっくり観察したことは今までなかったのです。

東川町内でもキトウシ森林公園をはじめ、至る所で見つけることができます。私たちにとってはなんてことのない花なのですが、見る人によっては大変貴重なのです。そのことを頭の片隅に置いて眺めてみると、いつもとは違う花の表情を見つけることができるかもしれせん。

東京の方がおっしゃっていました。キトウシ森林公園が東京近郊にあったなら、お花の時期には大行列、大渋滞になるでしょう、と。

山樂舎BEAR 土栄 拓真

俳句

今日の東川町も恙無しやと門涼み

散るをもて桜にいのち宿りけり

まどろみの耳に届きし喜雨の朝

西日さす青春の日の「神田川」

人知れず誇りは高き朴の花

茶器に紅つけのこしたる薔薇の昼

喜雨到りみるみる畑を浸しけり

喜雨一日賢治の童話読み聞かす

板の間の戻れば西日歩にまどふ

水の面にすげ笠映える田植祭

大空へオオヨシキリのアリアかな

葱植えて喜雨まち望む日暮かな

薫風に誘われ銀輪連ね行く



高瀬潤

石澤清宏

澤田久美子

松山蓉子

三島智

秋山深雪

長谷川きみゑ

小林露葉

青野公花

杉山ひろのり

徳光吐苦

杉山りつ

山口佐知子